



米國岡士報知書四





樟腦獨操權ノ論

大正十一年四月
隈侯意郎寄贈

外國ノ商人ヲシテ樟腦ノ産者ヨリ推シテ
買ハシムルノ法度ニヨリテ地方官ト米國
全權目代人トノ間ニ千八百六十八年ニ大
ニ辨駁ノ論起リシカ獨操ノ權ヲ廢去スル
ノ事アリテヨリ其論實ニ相止メリ然レテ
遲速ヲ問ハス再ヒ支那人ノ此ニ注意アラ
シク疑ヲ容レス故ニ今能ク此事情ヲ撰視

十卷首

之都テ關スル所ノ通義ヲ論決スルヲ可ト
ス余今先ツ此事情ニ關セシ本地ノ人ノ各
々其占處ヲ自理スヘキ各分ヲ論シ次ニハ
外國ノ條約アルヲ以テホルモサ各地ノ貿易
ニツキ支那人ノ主張セシ獨操ノ權ニハ大
ニ妨碍ヲ為スノ旨趣ヲ論セシ依テ首先ニ
此事情ヲ述フ

元來支那ノ權ハ本地ノ人ノ封境内ニ相ヒ

及サ、ルヲ以テ此地必ラス支那帝國ノ所
領タルニ非ラス此ヲ以テ允ソ何人モ恆久
不羈ノ居留地ヲ為サントノ志意ヲ以テ其
地ニ占據スルモ敢テ妨ケナシト人種酋長
專ラ此ヲ以テ推義ノ理アリトス然レモ余
カ見ニ從フ片ハ此義全ク差錯ナラニ到底
支那人ノタイヲ各地管理ス可キノ明分
ハ支那人ノ言ノ如クニ千四百三十年ニ其

地ヲ發見セシヨリ起ルニ非ラス今ニ至テ
猶ホ支那人ノ其地ヲ辨知スルヲ少ナシ且
ツ其山背ノ外形ハ千五百八十五年ノ革命
前ベンカル各地港ニ至ル迄東海ヲ探討セシ
日本人ノ注心ヲ出ルヲナク且ツ果然トシ
テ數百年前ヨリホルモサ各地ノ土人ト貿易
ヲ行ヒタルヲ聞ケリ然リト雖モ其地ヲ征
服スルカ若クハ開埠ノ故ヲ以テスルカ又

其國俗ニヨリテ統管ス可キノ名分ヲ論セ
ハ其義霄壤懸隔セリ一千六百六十二年ニ
於テコヲキンカ各人ホルトセカンスヤ各地及
ヒタイヲニフ各地ノ近隣ニ於ルサカニ各地ノ
小州ヨリ獨逸人ヲ追掃シ中央ノ西濱ヲ征
服セルヲ以テ其地ヲ管理スヘキノ明分瞭
然タリ其ノ降書ノ條件十八條アリ其條件
中三八一箇ノ若并ニ其財ヲ記述セリ然レ

卜務

臣歐州ノ砲臺ハ短兵急ニ攻ルヲ以テ既ニ
投降セシカ然ラサレハ侵掠セラレタリ予
六百八十三年以降此島ニ在ル支那ノ居留
地ハコーキンカ各人ノ后胤ヨリ當時ノタル
タル朝ニ移遷セル所ヨリ支那人土人ヲ前
驅ニ絶エス丘陵ノ方ニ進ミシ斯ノ如キ形
状ニシテ西ニ至ル迄海ノ間ニ及ヘル平原
ト北ヨリ南ニ至レル中央ノ高キ山列ニ占

據シ又マンソン各島羊島ハニカ各港港ホウ
イ各港ハニカ各港十ニカム各川川ノ間ニ狭マレ
ルタテーム及ヒロハン各島ノ群島ニ占據シ
猶且ツケーラン各島ノ近辺ニ在ル石煉ノ地
ケーラン各川ノ貫キシ同地ノ南西ニ當レ
ル富饒ノ山谷カモランタイン各島ト稱セル
其東ニ当ル多山ノ外郭サヲイ及港ニ占
據シ斯ノ如ニシテ内郭ニ於ル山列ノ麓ニ

十
分
首

達セリ此時ニ至リテハ勇悍ナル山人相敵
スルヲ以テ已ムヲ得ス此地ニ滯止シ今ニ
至リテ尚其山人ヲ退移セシムル能ハス興
地ニ於テ支那ノ境界ハ此ニ至テ止ムトノ
兩三言ヲ記セリ此言ヲ以テ闔國ヲ征服セ
ントスルノ宿志ヲ嘗テ遂クル能ハサル
徴推テ知ルヘシ

余曾テ聞クニカントニ
名地州中久困迫ラレ

タル勤勞ノハカス
名地ノ衆民昔時土人ノ為
メニ大洲ヨリ追散セラレタルヲ以テホル
モサ
名地ニ移住セルアリト彼人多クハ此地
ノ留存セル懇情ノ人種ト海濱ニ在ル支那
人トノ間ニ占據シ北ヨリ南ニ至ル迄巨多
ノ繁榮ナル村落ヲ処々ニ肇基セリ而シテ
直ニ本地ノ人ト通交貿易ヲ開キ彼人ノ
至要ナル兵械火藥玉外國製若クハ支那製

ト
チ
チ

ノ布。黃銅或ハ銀ノ飾。塩ノ類ヲ輸シ鹿角。熊
豹其他ノ皮。于獸肉。生姜。鳳梨。麻布。樟腦此品
本地
製造テ大ニニ易フ斯ノ如ク彼此相利スル
所以ヲ以テ兩國交通堅固ナリシカ尚ホ新
入ノ者本地ノ人ノ娘々ヲ娶リ或ハ丘陵ニ
於ル田疇ヲ收讓スルヲ以テ通交不拔ノモ
トナレリ然リ而シテ此田疇ハ財貨ヲ得
ルノ端緒ト成リ就中樟腦ノ製造ヲ事トス

ルヲ得タリ余客歲四月五月ノ兩月間此辺
ノ巨多人居留地ヲ訊者シ而シテヲ一ラン
地名ノ東ニ当レル山列ノ麓ニ在ル居留地ニ
於テハ烟草。薯。砂糖ノ豊阜ヲ得ラル可キ田
疇又ハ樟腦ヲ蒸餾スル巨多ノ竈ノ修業セ
シ地ヲ算數セリ此等ノハカス名國人自己ノ
封内ニテハ各々一君タリ然シテ髮ヲ剪リ
髮尾ヲ飾ル支那ノ風ニ基キ又眠食起居モ

卜務省

不異ト雖モ其實ハ支那ノ規法ヲ知ラス此
ノハカス名國人ハ田疇ヲ借タル土人ニ貢稅
ヲ収メ而シテ其地ヨリ出ルノ產物ハ他ノ
ハカス名國ノ都府ニ輸シ其地ヨリ逼近ノ街
市ニ送り高利ヲ貪テ之レヲ賣ル樟腦而已
獨リ千八百六十七年獨操權ノ廢棄ニ至リ
シ迄統一ノ法ニ相反シ墮斷者專ラ之レヲ
買得タリ支那人ノ未タ達セサルヲヤサシ

地名東ニ當レル他ノ地方ヲ見レハ未タ交
通ノ道行ハレス強暴ノ所為盛ニ行ハル、
有リ今例ヲ擧テ云ハ、樟腦ノ生セル州
征服センカ為メ本地ノ人ニ向テ征討ノ整
正アリ此計謀ニ關セル行陷求利ノ人ハ此
争鬪ノ危難ヲ恐レス土人ト戦ヒ損失ヲ蒙
ル有レハ墮斷者是レヲ償フノ備防アリ然
リト雖モ此等ノ人ノ進歩徐々ニシテ疾方

ト務

ラス此ヲ以テホルモサ各地生産ノ總數ヲ論
 スルハ不羈ナルハカス各國人ノ穩當且ツ
 私ナキ努力ニ勝レルモノ無シ
 ホルモサ各地ノ人種及ヒ懇切ナルハカス各國
 ノ居留地各地ニホリス各地留存セル者ノ論ニ
 允ソ余輩ハ不羈自立ニシテ何人モ制ス可
 カラス且ツ各々占據セシ地ハ自主ノ大權
 アリテ又何人モ管理スヘカラスト然リ而

シテ此論說ヲ可トスル者ハ世ニ又少ナカ
 ラス
 支那人ハ大ニ其說相反シ抑草昧ノ地ヲ開
 化國ノ管理ス可キハ各國ノ公法ニ出ルト
 自己ノ志惟ヲ主張シ是ヲ以テ合衆國ノ亞
 國各地イニテヤ各地ヲ管治シ英國ノヲーストヲ
 リヤ各地及ヒニールラント各地ヲ管治スル
 ノ例ニ基キ土人ノ領地ヲ掠奪シ其土人

勿論其他何人タリ臣相抗抗ニ其地ヲ掌握
スルノ權義確然自カラ相存セルト云

余前件兩説ヲ視察シ其可否ヲ決スルニ抑
開化文明ノ國ニ於テ草昧ノ人種ヲ管理ス
ルノ事情ハ草昧ノ國ヲシテ文明國タルノ
裨益ヲ受ケシメシカ為メナレハ苟モ支
ニ於テ此大旨ヲ謬ラスニハ支那ノホルモ
サ地ヲ管理スヘキノ名分ニ於テ誰カ一言

ヲ陳スルケニヤ故ニ此理アルヲ以テ本地
ノ人社稷ノ存込ヲ共トスヘキ一君ヲ戴ク
トナク又自カラ各國ト立約ヲナスカ如
一國タルノ躰裁ハ既ニ廢止セリ然リ而シ
テ前件ノ事情ヨリ其保護ヲ受ルト雖モ敢
テ苛酷ニ出ルトナク又其律例始終顛末ヲ
全フシテ紛亂セス又天賦ノ通義毫モ安享
セサルハナク各々ノ一身ハ各々管理シ

據スルノ地田臘ノ地一身ノ所屬ヲ離レ
故ニ此地ヲ掌握シ一身ノ恣慮ニ随ヒ安享
スル支那人ノ田疇及ヒ漁地ヲ安享スルト
相異ナラス是ヲ以テ支那政府若クハ他ノ
人ニ借サント欲スレハ借スモ妨ケナク又
賣ルモ妨ケナシ蓋シ其地ヲ賣却スルニ
リテハ其地ヲ維持ス可キ一身ノ通義ハ買
客ニ移シルモノナリ斯ノ如キ通義ハ如何

ナル方法ナリト雖モ支那人若クハ他民挾
制スル能ハス又妨碍スル能ハス故ニ樹ヲ
伐ラント欲スルモ又農事ノ為メ地ヲ掃
セントスルモ一身ノ隨意ニ依テ之ヲ為シ
テ可ナリ又礦事ヲ開カニ為メ磐石ヲ破裂
セントスルカ若クハ其地ヲ穿タント欲ス
ルモ假令斯ノ如キ所業支那ノ令典ヲ以テ
論スルハ罰罪ヲ免カレスト雖モ行フニ

妨ケナク且ツ他人ヲシテ為サシムルモ可也
也彼人自ラ礦務ヲ事トシ其地ヲ穿掘スル
モ妨ナク又他人ヲシテ行ハシムルモ可也
又家室經始ノ一支那ノ法令ニ於ルヤ禁制
ナリト雖モ其大小摸範如何ナルヲ論セス
自カラ造營スルモ妨ケナク又他人ヲシ
營繕セシムルモ可ナリ總テ斯ノ如キ自主
自由ノ道ハ安享スル妨ケナク又其所業ハ

行フモ然ケナシ蓋シ是等ノ一ハ其國ノ國
是ニモ成ラス又文明開化ノ國ノ法典ニモ
齟齬セス且ツハ支那ニ對シ統屬ノ事務
失スルニ非ラサレハナリ
田地讓與ノ條ニツキ獨支那人ノ論シタル
件ハ讓與必ラス其ノ所任有司ノ面前ニ於
テ行ヒ且ツ押印ヲ受ク可キヲ主張セリ元
來田地讓與ノ一ハ其地ヲ維持スヘキ通義

ト務百

ヲ讓リタルニ異ナラサレハ抑支那ノ有司
押印ヲ為セルハ只其通義買客ニ移レルノ
旨ヲ示サシカ為メナリ

ホルモサ各地ノ事情ハ支那ト外國トノ立約

ノ大旨ヲ摸範トシテ辨明窮極ニ至ラハ允
ソ宇宙間ノ人ニ對シ裨益ナキニ非ラサ

ニ元來ホルモサ各地人占據ノ地ハ曾テハカ

ス各國人ヲ入ル、カ如ク土人ノ勤勞ヲ保護

スルニ然ニ且ツ百般至好ノ結局ニ至ル可

キノ事情ニテ稍我輩ノ臨ム可キ期ナキニ

非ラス彼土人文明開化ヲ容ル可キノ

余カ一身ノ視察ニ出ルニ非ラス余ヨリ曩

キニ此濱海ニ至リ感ニ貿易ヲ行ヒタル他

人此事情ニ於テ更ニ疑ヲ殘サス

千九百年代ノ史家へホース各國ノ事ニ付テ

ノ言ヲ陳述セリ

ト務首

南方ニ於テ曾テ支那ニ所屬セシ十二ノ
都府中依然トシテ其管下ニ在ル者九府
ニ過キス三府ハ叛キテ以テ貢稅ヲ収メ
ス乃チ此島ノ東方ニ合同セリ然レモ當
帝ニ至リテ都府多ク服歸セリ此ヲ以テ
他ノ離叛セシ府モ漸々其例ニ倣フ可
ト企望セラレタリ此等ノ人支那人ノ為
メニ草昧ノ人タルヲ免カレスト雖モ却

テ諛諛ノ君子タル人ヨリ其道ニ迹キカ
如シ今例ヲ舉テ示サハ彼レ支那ノ方規
ヲ守ルト雖モ未タ曾テ偽詐奪盜角口
事ノ有ルヲ聞カス而シテ常ニ公平ヲ守
リ且ツ互ニ慈心アリ若シ茲ニ一物アリ
テ其一人ニ賜ハラル、有ラハ必ラス已
レト勞苦ヲ俱ニセシ者ト此賞賜ヲ分カ
ツニ非ラサレハ敢テ其物ニ手ヲ觸ル

ナニ此地ニハ獨逸人管轄セシ時ニ西教
ニ變セシモノ多シト云且ツ獨逸語ニ曉
通セシ者其書ヲ讀ミ得ル者其文字ヲ書
記スル者少ナカラス又信教ノ書モ彼
人ノ中ニ發見セラレタリ
彼地ノ人偶像ヲ尊奉セス且ツ偶像ニ關
セシモノハ各事忌嫌セリ然リ而シテ又
西教ニ彷彿タル信教ノ所為ヲ為サス猶

本如何ナル祈念ノ如キモ唱エス

獨逸人ハ元來公然明白ノ人也彼國一人ノ
史者千六百七十五年本地ノ人ノ事情ヲ注
意シ左ノ言ヲ記セリ

此地ノ民ハ概シテ丁寧且ツ善良也彼人
余ニ對シ大ニ懇信ノ情ヲ尽シ常ニ何人
モ害スルナク又奪フナク交朋及ヒ同盟
ノ者ニ信ヲ失ハスト

獨逸管轄中彼地ノ人其國ノ言語ヲ外國文
 ニ書記スルノ方法ヲ知レリ此事實ハ元來
 獨逸人自カラ目撃シテ其徵ヲ示ス而已ナ
 ラス且ツタカラ各地ノ東ニ当リ二十八里
 地ニ在ルバクサ各地ノ留存セルヘホ國ノ
 人種ノ領地ニ於テ發見セラレシ地券及ヒ
 他ノ文書ヲ見レハ其證タル滋瞭然タリ
 二月下澣ニタイヲ各地ンフ各地ノドクトルマキ

ウ名五ル名此文書ノ一葉ヲ余ニ授ケリ抑世
 ニ所謂名六ルモサ各地人ヲ賤下ノ人ト論スル
 所以ノモノハサ名ヲ一港此地タカラ南
 或キクハ北東ノ海濱ニ在リ近辺ニ占據セ
 シ人種ヲ見テ右等ノ説ヲ唱フルトニシテ
 真ノホルモサ各地人ヲ言フニ非ラス元來其
 人種タル千五百年代及ヒ千六百年代ノ間
 獨逸人或ハスヘ名國人ト六ニ來リホルモ

廿各地人ヲ追却シ其地ヲ領シ或ハ其民ヲ殄
 減シ或ハ其民ヲ苦使シタルタコト各人
 ノ后胤ニシテ同宗ノマニラ各國ノ如ク元來
 無智兇猛且ツ殘忍ナリ故ニ斯ノ如キ者
 情態ヲ述ヘタルモノヲ以テ獨逸人ノ常ニ
 謂エル本地ノ人ノ情態トナサハ大ニ方底
 圓蓋ナラン

此レ追及那ハ外國ト條約ヲ為サスニハホ

ル各地サ各地ト支那トノ目今ノ事情ニテ若シ
 本地ノ產物國境ヲ過クルノ時ニ瘠リテ稅
 額ヲ納ルト雖モ敢テ土人ノ高法ノ自主
 勤勞ノ自主ト云エルニツノ大道ヲ妨クル
 ト云フヘカラス故ニ支那親自ノ管轄ヲ受
 ル間ハ此島ノ封内ニ於テ樟腦獨標權ヲ政
 府ニ於テ設立スルヲ敢テ拒ム可キノ理ア
 ラス然リト雖モ外國トノ立約セルニ依テ

此事情ニ於ル皇帝ノ專權ニ相ニ關碍スル
アリ

支那昔日ノ法令ニヨレハ多方ノ港口ニ於
テ貿易セシ外國ノ商人ハ商事ニツキテ
那政府ヨリ許可ヲ受ケタルコホシ官ト云

エル高吏而已ニ貿易通商セサルヲ得サリ
シカ此事實外國ノ商事ニ大害ヲ醞釀スル
ヲ以テ一千百四十二年ニ英國此ノ旨趣ヲ

論ニ終ニ廢去ス可キノ立約ヲナスニ至リ
千八百四十二年六月ニ取結ヘル南京條約
ノ第五條ニヨレハ支那皇帝曾テ約セル港
口ニ占據セシ英國商人ヲシテ隨意其ノ欲
スル所ノ人ト高務ヲ行フ可キヲ訂約セ
是ヲ以テホルモサ各地獨リ此條約ニ関カラ
サルヲ得ス故ニ昔日設立セシ獨操權ニヨ
リテホルモサ各地人ノ通商ニ関セル制度ニ

外國條約ノ地ニ墜ルニ非ラスニハ再ヒ興行ス可カラス

數種產物ノ論

余砂糖靛花煙草茶ノ製造ノ一ヲ以テ聞ル能ワス總テ此等ノ例品ハ昨年余ニヨルク各地ニ送レリ茶砂糖ノ外其他ノ品ハ多ク本地ノ小艇ニ積ミ支那ノ港口ニ輸出セリ曾テ聞クニ抑バンカ 中至富ノ商人ハ

靛花ノ貿易ヲ事トシテ以テ其財ヲ積殖セ

リト云此島ニ巨多産セル麻ヒーツペパー

紙各及ヒセサメーム各木ノ種實此品ハ支那人油ヲ製スルニ

用ハ本地中至要ノ輸出品タリ此產物ノ小

荷ハ只試考ニ供スル為メ昨年英國工販品

セテラタリ

材料ノ論

余ホルモサ各地ニ於ケル各種ノ材料ヲ聚集

十番

セリ然レ其價直如何ナルヤヲ知ラス余
其例品ハニールク各地ノ博物院ニ送レリ
此材料ハ概シテ多ク支那中ニハ至貴ノ物
品トス中ニ就テ食ヲ盛ル可キ碗或ハ皿等
ニハ僅モ油ノ無キカニモ木及ヒ魚味ノ
サリプ下ヲ以テ製ス此材ハ密ナル木條ノ
モノニシテ雨天ノキニ用ユル支那ノ木底
ノ沓ヲ製造スルニモ用ユモ木マ木ハ普

ク各地ニ有リ而シテ長シテ巨樹トナル其
材ハ家具戸窗ヲ造ルニ首トシテ用ユセ木
フル木ハ極メテ固密ノ木條ノモノニシテ
小艇ノ楫鑿ノ柄鉦舵ヲ製スルニ用ヒ又日
用ノ具ニシテ久存スヘキ器具ニ用ユ且
其品ハ大ニ彈カノアルモノ也予ヤカツ木
木ト云エル材ハ飾用ニ供スヘキ材ニシテ
支那ノ卓子ノ廣縁等ニ用ユ其卓子ノ中心

木
竹
骨

ハ尚ホ一層白キ材ヲ用ユ支那人ノ常ニ至
貴至重ノ材ト思想スルセーヲニロ一各本
甚タ多費ナルモノ也此材ハアモイ各地又他
処ニ販出シ且ツ卓子中心ノ白色ノモノニ
ハ善ク相適スルヲ以テ全ク飾用ニ供ス子
ヤレヲ各本ハ又至重ノ材ニシテ特ニ印板ヲ
作シ或ハ粧飾ノ品ヲ切嵌メ又彫鏤サレタ
ル木匡ヲ製スルニ用ユサニロ一各本ハ土人

ニ至要ノ材ニシテ此島ニ繁生セリ此品ハ
造船ノ材料ニ用ユルヲ以テ大ニ高價ナリ
支那人此材ハ壊破スヘカラスト思信セリ
故ニ此材質相ヒ審事セサルノ間ハ其價直
減セサルヘシ此品ハ常ニ艚船ノ底ヲ造ス
ルニ用ヒヲ子ニ各本ハ生シテ巨樹トナリ厚
板ヲ作ルニ用ユスワサム各本ハ大洲ヨリ輸
セシ物ト比スルハ瞭然相勝レリラニユ

一 名本 ハ支那ニ多クアリテ菓實ヲ生セリ而
 シテ光輝アル黒石ヲ持子其外頭ニハ鼠色
 ノ皮ニ彷彿タル固キ殻ニ包マレ極メテ芳
 馥タル臭味ノ白キ菓肉有リ巨大ナル樟腦
 木ハ世人ノ能ク瞭知スルヲ以テ敢テ筆舌
 ヲ勞スルニ及ハス其他説出スヘキ材ハス
 ワラニヤニ 名本 セーブル 名本 ト等シキ用ニ供
 セルカニツア 名本 又其形状多クカニモ一

ニ彷彿トシテ且ツ等シキ用ニ供セルペー
 ホー及ヒバニカー 此本ハ蠟ヲ含メル質アリテ木脂油ヲ製セント
スルニハ必ラス 又スヨニソ 名本 及ヒ支那
其種實ヲ用ユ ノ傘ノ椽ヲ造ルニ用ユ可キ子一シヤニ又
 烏木ナリカニラニタイ 名本 ノ地タルヤ外
 國ノ貿易ヲ為ニ可ナルヘキ山林ノ多キ州
 ニシテ造船ニ用ヒラルヘキパンモ 名本
 及ヒテニツ 名本 ト云ヘルニ種ノ材ハ繁殖セ

リ其パンモーク木ト云ヘル木ハ適任ノ探

討家ノ説ニヨルハ甚々豊阜ニシテ且ツ直

經二十イニツ尺ヨリ三十八イニツ尺長サ

二十四フート尺ヨリ四十八フート尺ノ材

片ヲナスヘシト云ヘリ而シテ其木タルヤ

概シテ真直ニシテ且ツ無癡ナルカ如シ然

レ其木多ク曲鉤ノ造ヲ為ス能ハス樟腦

樹ハ之レニ比スル片ハ少ナク且ツ此島ノ

内地ノ山ニ於ルカ如クニ巨樹ナラス多ク

ハ其長ケ十五フート尺ニ過キスカモラニ

地名ノ山林ハ至リ易シ而シテ山谷及ヒ丘陵

ノ脇側ニ欄道ヲ造ル片ハ海岸ニ運輸スル

モ失費亦多カラス

夕
利
不